

平成21年度 シラバス	学年・期間・区分	3年次・後期・A群
	対象学科・専攻	電気電子工学科
情報処理 (Information Processing)	担当教員	今村 成明 (Imamura, Nariaki)
	教員室	電気電子工学科棟2階 (Tel. 42-9022)
	E-Mail	n_imamu@kagoshima-ct.ac.jp
教育形態 / 単位の種別 / 単位数	講義・演習 / 履修単位 / 1単位	
週あたりの学習時間と回数	授業 (100分) × 15回	
〔本科目の目標〕 本科目では、様々なソフトウェアの開発に利用されているプログラミング言語、C言語を修得する。文法の理解を目標とする。		
〔本科目の位置付け〕 3年次の情報処理の続きである。2年次の項目の基礎部分を修得していることを前提とする。本科目は5年次の情報処理の基礎となる。		
〔学習上の留意点〕 プログラミングは、どれだけ多くのプログラムを作成したかによって、上達のスピードが変化する。そのため、本科目は例題、演習を主体となる。学生諸君には積極的に課題に取り組む姿勢をもってもらいたい。疑問が生じた場合は直ちに質問し、理解を深めることを要望する。		
〔授業の内容〕		
授 業 項 目	時限数	授 業 項 目 に 対 す る 達 成 目 標
1. 文字の取り扱い 1.1 文字列と文字配列	8	文字配列への代入方法、EOSの意味を理解できる。 文字配列の初期化について理解できる。 文字配列の表示方法について理解できる。 文字列へのポインタについて理解し、ポインタを使ったプログラムを作ることができる。
1.2 ファイル入出力 --- 後期中間試験 ---	6	ファイルポインタ、およびファイルのオープン、ファイルオープン時のエラーチェック、ファイルのクローズの方法について理解できる。 ファイルからのデータの読み込み、書き込み方法を理解し、各種プログラムをつくることことができる。 授業項目1-1.1～1-1.2について達成度を確認する。
1.3 文字列の応用	8	標準関数を使った「文字から数値への変換」、「文字列のコピー」、「文字列の連結」、「文字列の長さの取得」、「単語単位への分解」の方法を理解できる。
2. 構造体 --- 後期期末試験 --- 試験答案の返却・解説	8	構造体の宣言、構造体メンバへのデータ代入と参照、構造体配列の宣言と使用方法を理解し、プログラムを作ることができる。 構造体を関数値として用いたり、構造体を引数として用いたりする方法について理解し、プログラムを作ることができる。 構造体へのポインタの宣言と使用方法について理解し、プログラムを作ることができる。 typedefの意味を理解し、typedefを使った構造体の宣言ができる。 授業項目1-1.1～2について達成度を確認する。 各試験において間違った部分を理解出来る。
〔教科書〕はじめてのC言語 完全入門 堀越一雄 技術評論社		
〔参考書・補助教材〕適宜プリントを配布する		
〔成績評価の基準〕中間試験および期末試験成績 (70%) + レポート成績 (30%) - 授業態度 (最大10%)		
〔本科 (準学士課程) の学習教育目標との関連〕 3-c		
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕		
〔JABEEとの関連〕		